

1 年次

Freshman

2 年次

Sophomore

3・4 年次

Junior, Senior

導入科目を少人数で開講 基礎から専門へ段階的に修得

専門教育を学ぶ助走として、経営学、マーケティング、会計学に関する導入科目群や経済学と法律の基礎を学習。

- ワークショップ1 (社会人基礎力育成科目)
- ネイティブによるビジネス英語
- 簿記などの資格支援講座を開講
- データ処理論でPCのスキルを習熟

参加型授業で 柱となる3分野を体得する

少人数による参加型の授業スタイルも活用して、専門科目の核となる経営学原理、経営組織論、マーケティング、財務会計論などの基幹科目群を学習。

- ワークショップ2(ゼミナル導入科目) 後期: 演習(ゼミナル)の募集開始
- インターンシップ(講義)開始

体系的に学びを深めながら 少人数の演習で卒論を完成

10名程度の演習形式(ゼミナル)で、専門分野を深く学び、卒論に取り組む(選択)。また、専門性の高い経営管理論、消費者行動、税務会計などの応用科目群を学習。こうして積み上げた体系的な知識、問題発見力や分析力、表現力を活かして、4年次の早い段階で卒業後の進路を確定。

- 3年次の夏には国内外でのインターンシップ(実習)が可能
- ゼミナル
- 卒業論文

主な卒業論文のテーマ

- なぜ若者の間で集団お揃いコーディネートが流行しているのか
- 消費者のブランド知識の構築におけるキャラクターの役割
- なぜ大学生はハロウィンイベントに参加するのか
- 制御焦点理論からみる「ご褒美」としての購買とその促進方法
- DIYがモノへの愛着に与える影響
- なぜ高校野球を観戦しに行くのか: 自伝的記憶の役割
- 関係性マーケティングからみる銀行業界の今後
- 構造的イノベーションによる競争優位の獲得
- 京浜急行電鉄の多角化と交通事業
- 地域密着を目指すJリーグが取り組む現状と課題
- ガラパゴス大国におけるコンテンツ振興策
- 原価計算の歴史と企業環境の変化
- 農業への会計導入に関する一考察
- 管理会計導入が組織文化に与える影響
- 企業年金の会計基準

2019年度「経営学特講」開講例(一部抜粋)

- 国際ビジネスと国際契約
- イノベーションとクリエイティビティ
- マーチャダイジング
- 広告/コミュニケーション戦略
- 事業活動に対する課税の制度と法
- 日本の電力会社の経営史
- 投資家の視点: 資本市場の役割と証券投資
- 内部統制論
- 会計士の視点: ケースから見る財務会計制度の意義
- 経営者の視点: 社会貢献とビジネスの両立
- 上場企業におけるディスクロージャー制度
- 世界市民としての視点: 人道、人権、多様な価値の受容




経営学科カリキュラム

◎ 必修

○ 選択必修

● 選択

▶ ヘボン・キャリアデザイン・プログラム

導入科目群	○経営学入門 ○マーケティング入門 ○会計学入門		
基幹科目群	○経済学概論 ○ビジネスのための法律 Featured 1	○経営学原理 ○経営組織論 Featured 3 ○マーケティング Featured 4	○市場システム ○財務会計論 Featured 5 ○管理会計論
応用科目群		●経営史 ●経営戦略論 ●情報ネットワーク論 ●証券論 ●保険論 ●経営財務 ●企業分析	●原価計算論 ●民法 ●商法 ●環境と社会 ●経営学特講 ●ビジネスのための税法
演習科目群	●データ処理論 Featured 2 ●ビジネス英語1・2 ●ワークショップ1 ●簿記 ●応用簿記	●ビジネス英語3・4 ●工業簿記 ▶ インターンシップ(講義) ●ワークショップ2	●演習A1・2 ●演習B1・2 ●マーケティング・リサーチ ▶ インターンシップ(実習)
隣接領域科目		[国際経営学科の専門科目] ●国際経営論 ●貿易論 など	[国際経営学科の専門科目] ●国際会計論 ●国際金融論 など [経済学科の専門教育科目] ●実験経済学 ●日本経済史 ●ファイナンス など [その他の他学科科目] ●租税法 ●産業社会学 ●憲法 ●会社法 ●社会保障論 など
明治学院共通科目	◎明治学院共通科目(14~17ページ参照)		



※年次は、当該科目を履修できる最低年次を表します。

※2021年度予定カリキュラムです。実際のカリキュラム・科目名は変更の可能性があります。 ※開講科目は上記以外にもあります。詳細はシラバスまたは本学Webサイトでご確認ください。